

1. 施設理念

ル・ソラリオン葛飾は、葛飾に根ざした高齢者福祉施設として日常生活において介護を必要とする高齢者が、地域の中で自分らしく生きる家として専門性の高い個別ケアに基づく入所サービスならびに在宅サービスを提供する。

2. 施設方針・テーマ

『地域のなかで高齢者が生き生きと住み続けられる家（「陽の当たる場所」）として、ご家族とともに愛のあるケアを提供していく。』ケアの提供にあたって、職員は丁寧に考え、誠実に対応する。

◆個別ケア

全室個室のユニットケアの特徴を生かして、日常生活の中で、利用者の意思・人権を最大限尊重し、利用者が個々の生活リズムに合わせて、その人らしい生活を送れるよう良質な個別ケアを提供し支援する。

◆チームケア

介護、リハビリ、栄養、相談、事務すべての職種の職員が専門家として各々の専門性を発揮しつつ、家族とも協力し全体でひとつのチームとして利用者の介護を行うという認識を持ってチームケアを提供する。

◆安全・安心

きめ細かい健康管理を実施し、安心できる医療体制のもと、自分らしい生活をおくって頂けるよう支援をする。リスクマネジメントを徹底させ事故のない安全で、安心な施設を目指す。

◆経営の安定・透明性と賢い職場環境

適切な稼働率管理を行い ISO9001 定着による業務の標準化及び継続的改善を進め、経営の安定化を図るとともに、第三者評価の受審、結果公表を通じて経営の透明性を確保する。また、経営を安定させるとともに、職員の心が安定して誇りを持って仕事に取り組む環境を整備し、より良いサービスを提供する。

介護人材不足に対応するため、介護留学生を受け入れ、サービスの向上を図る。

◆地域連携

葛飾に根ざした施設として、地域社会との関係を深めボランティアなど地域の人的資源を受け入れるとともに地域に貢献できる施設を目指す。

3. 実施事業及び定員

(1) 介護老人福祉施設	定員 140名
(2) ショートステイ	定員 20名
(3) ケアハウス	定員 20名
(4) 認知症対応型デイサービス	定員 12名
(5) 居宅介護支援事業	定員 35名

4. 重点事項

抱負・目標

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが 5 類感染症となり、施設経営の更なる安定化を目指す必要がある。“ユニットケアによる個別ケアの提供を行う施設である”という開設の原点を忘れず、今まで培った基本的な介護サービスを提供する能力の基盤の上で今以上の質を担保し、地域から選ばれる施設を目指しながら稼働率改善に取り組む。

どのような状況下にあっても、地域の福祉を守ること、事業を継続していくことは我々の使命である。どんな時でもピンチをチャンスに変える発想、あらゆる先入観や従来の価値観・枠組み・対処法に捉われることなく、より一層、柔軟な考え方で対応を継続する。

ISO9001 を施設運営のバックボーンとして定着させ、サービスの質を維持するとともにより良いサービスを目指して常に改善を行う。

「人生をゆっくり楽しもう」という「スローライフ」の考え方を理解し、利用者のことを丁寧と考え、誠実に対応することを心がける。

先進技術の導入等による更なる生産性の向上と業務効率化を目指すことはもとより、各専門職の専門性を追求することで仕事のやりがい、達成感、帰属意識の向上をはかり、魅力的で誇れる職場を構築する。

介護職員の人材確保と定着、育成については、外国人人材も含め、積極的に取り組み、レベルアップをはかりながら、利用者により満足のいただけるサービスを提供する。また、ワークライフバランスを踏まえて、全職員が生き生きと長く働き続けられる職場づくりを推進する。

科学的介護情報システム（LIFE）のデータ提出スケジュール管理を適切に行い、フィードバックを活用し、ケアの質の向上を図る取組を継続する。

自然災害や感染症リスクへの対策を強化するため BCP 策定を行い、訓練や研修を継続的に実践していく。

経費削減や共同購入に努め、無駄を見逃さない組織風土づくりを定着させる。

(1) 人事育成と職場定着

① 職員の定着率・能力の向上を図る。

- ・離職者を定数の 10%以内にする。
- ・働きやすい職場環境づくりを図る。
- ・仕事と家庭を両立させる組織風土を確立する。
- ・研修による知識・技術の習得を通じ専門職としてのレベルアップを図る。

② 外国人留学生を育成する。

- ・インドネシア介護留学生の育成と戦力化を図り、安定した人材確保につなげる。
- ・介護福祉士養成校との連携を図りながら、資格取得に最適な学習環境を提供する。

③ 次世代介護ロボットや ICT 機器を活用し、職場の魅力を高め優秀な職員の確保を図る。

- ・職員の意見を反映した機器の導入を計画し、業務負担軽減及び意欲向上につなげる。
- ・クラウドでデータを管理、分析できるベッドセンサーシステムを活用し、利用者個々

の生活リズムの把握を行う。

- ・安楽な移乗と腰痛予防に効果のある移乗支援電動リフトの導入。
- ・個別排泄ケアの質向上のため、オムツセンサーを導入し、データに基づいた適切な支援を行うとともに、消費コスト削減に取り組む。

(2) 利用者へのサービス提供(顧客満足・質の向上)

- ① サービスの質の向上を図り、利用者の顧客満足の向上を図る。
 - ・ユニットケアに基づくより良い個別ケアを実施する。
 - ・利用者個々のレベルに合わせたレクリエーション・行事を提供する。
 - ・利用者が心穏やかに毎日を過ごす事が出来る認知症ケアの充実を図る。
 - ・身体拘束件数ゼロを目指す取り組みを継続する。
 - ・利用者が苦痛なく心穏やかに施設内で最期を迎えることが出来るようターミナルケアの充実を図る。
 - ・施設内における高齢者虐待の未然防止、早期発見、迅速かつ適切な対応及び不適切ケアの予防に努める。
 - ・褥瘡や看取りケア等、施設の強味である医療ケアの取り組みを各専門職間で評価し、改善結果や指標を示すことで職員のモチベーション向上につなげていく。
 - ・栄養ケア・マネジメント体制のもと、管理栄養士、看護職員、介護職員、生活相談員その他の職種の者が共同して「栄養改善」・「経口維持」に取り組む。
- ② サービスの点検をし改善を図る。
 - ・ISO 品質マニュアルによる業務の標準化を定着させ、運営上のリスクを回避する。
 - ・外部評価受審により、サービスの継続的な改善を図る。
- ③ LIFE(科学的介護支援システム)への取り組みにより、科学的な根拠に基づいたサービスを提供する。
 - ・提出するデータの進捗管理とフィードバックデータを活用する。

(3) リスク対策(感染・安全・災害等)充実させる。

- ① 管理(防災、事故防止、感染防止)の徹底を図り、感染症の発生・蔓延等を防止する。
- ② BCPを策定し、大規模災害時に於ける事業継続可能な体制の構築を図る。
 - ・非常食、防災備品を適正に管理し防災訓練や研修を実施し職員の意識・経験値を高め災害に備える。
- ③ ヒヤリハットを活用しながら気づきの意識を高め、リハビリ職員指導のもと徹底した検証を行い、重大な事故を未然に防ぐ。

(4) 施設・施設整備

- ① 建物の経年劣化に対処すると共に利用者に提供するサービスの質の向上に資する施設整備を実施する。
 - ・補助金を活用した整備事業計画を策定する。
 - ・速やかな修理・修繕・更新を行い、サービスへの影響を最小限にする。
 - ・定期的な点検・整備を継続し、製品の適合性を確認していく。

(5) 地域連携・社会貢献

- ① 基本的な感染対策を継続しつつ、地域と連携した行事に参加していく。
- ② 地域自治体および中青戸町内会との防災協定締結に基づき災害時の連携を維持する。
- ③ 葛飾区ボランティアセンターと情報交換しながら、受入を進めて行く。

- ④ 介護予防教室の再開に向けた準備を進めていく。

(6) 経営管理

- ① 目標稼働率の達成を目指す。

- ・退所者を見越した待機者の確保と全職員の経営意識の共有をはかる

目標利用者数（稼働率）

・介護老人福祉施設	134.7名 (96.2%)
・ショートステイ	16.0名 (80.0%)
・ケアハウス	19.7名 (98.5%)
・認知症対応型デイサービス	10.0名 (83.3%)
・居宅介護支援事業	34.3名 (98.0%)

- ② 合理化・効率化と経費の削減を図る。

- ③ 事業ごとに現状および課題の把握を行い適切な事業運営を目指す。

- ④ 職員は自らが関る事業の収入・支出の現状を認識し、稼働率向上や光熱費消耗品等の節約の工夫を実践する。

- ⑤ 法人内の共同購入により価格高騰の影響を最小限に抑える。

5. 新規事業

なし。

6. その他

なし。